

丹波縄文の森塾 活動報告



令和6年12月21日（土） 曇

もちつき



もち丸め



シイタケ原木枝打ち



しめ飾り作り



午前中は餅つきとシイタケ原木の枝打ちの体験。Aグループ（1，2班）とBグループ（3，4，5班）に分かれて、前半はAグループが餅つき、Bグループが枝打ち。後半は、Aグループが枝打ち、Bグループが餅つきをおこないました。

もち米は一晩水につけておいたものをザルで水を切り、40分ほど蒸しました。蒸し上がったもち米を臼（うす）に入れて、いよいよ餅つきの開始。もち米が飛び散らないようにサポーターに小突きをしてもらい、ある程度つきあがったところから塾生の出番。力のある塾生は、大人用の大きい杵（きね）でつきました。小さくて軽い杵も使って全員が餅つきを楽しみました。お餅は、調理サポーターに小さく切ってもらい、みんなでも丸めていきました。だんだんきれいなお餅ができるようになりました。

枝打ちグループは、事前に切り倒してあったシイタケの原木（クヌギ）を使用しました。ノコギリを使うのが初めての塾生も、恐る恐るノコギリの刃を枝にあて、ゆっくりノコギリをひきました。慣れてくると太い枝も切り落とすことができました。

今日の昼食は、お餅とみそ汁。餅米は、5月に田植えしたヤマフクモチ。自分たちで稲刈り、脱穀した餅米をついたお餅は格別でした。

午後は、しめ飾りを作り。杉本指導員が藁（わら）を使って手作りした本体に、赤白の水引などつけ、最後にミカンをつけると立派なしめ飾りが完成しました。水引を結ぶのが難しく、みんな試行錯誤していました。

淡路結びという結び方は、左右の輪が互いに結び合い、両端を左右に引っ張るとさらに強く結ばれることから、縁起のよい結びと言われています。来年は、さらに人と人とのつながりが深まり、幸せな一年となることを願っています。

